東北地区情報　第17号

発行　東北地区退職校長会協議会　　事務局　〒960-8107 福島市浜田町 4-16 富士ビル２F
代表　福　士　寛　樹　　TEL 024-534-5411　FAX 024-531-1195

退職校長会の「やっしょう　まかしょ」

東北地区退職校長会協議会
会長　福士　寛樹

10月７日に全国連合退職校長会設立60周年記念式典が行われ、東北各県の会長さん方とお目にかかった２日後の10月９日と10日、山形市　山形国際ホテルにて山形県教育委員会教育長　須貝秀彦様、山形県市町村教育委員会協議会会長　金沢智也様　山形県高等学校長会会長　渡邉晃様をはじめ多くのご来賓のご臨席のもと、東北各県の代表が一堂に会し、第51回東北地区退職校長会協議会山形大会が盛大に開催されました。

まず、理事会では、今年度末をもって退会する青森県の申し出が認められ、それに伴う会則改正並びに持続可能な東北協議会の在り方、青森県との今後の連携について話し合いました。残された協議事項については、各県会長と事務局長会とのメールによる話し合いにより、先日改正会則が決議されました。青森県ができるだけ早期に本会へ復帰されることを願い、引き続き、できる限り情報を提供していく所存です。

次に、総会では、ご来賓の皆様の祝辞に続き、全連退常任理事・会計部長の三上祐三先生から「全連退は、今」と題したご講話を頂戴しました。その後「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか。」のテーマのもと、秋田県、青森県から話題提供があり、その取組は大いに参考になるものでしたし、昼食時には、各県代表が、それぞれの現状や取組などを紹介し、有意義な情報交換の機会となりました。

続いて、懇親会では、山形県の鈴木会長さんをはじめ各支部長さんのお計らいにより山形県内の銘酒が勢揃い。初めていただいたお酒もたくさんあり、話が盛り上がり「東北はひとつ」を実感できるひとときになりました。

酒宴の中で、山形大学　花笠音頭サークル「四面楚歌」の若さ溢れるパワフルな演舞は目頭を熱くさせたほど見事でした。山形県の花「紅花」の装飾が施された笠をかぶり、テンポよくリズミカルな動きや限られたスペースでのパフォーマンスは感動を呼びました。「やっしょう　まかしょ」は、花笠音頭のかけ声で、豊穣を願いながら作業に携わる労働者の結晶として歌われています。その起源は諸説あるようですが、尾花沢で土木作業時の調子合わせに歌われた「土突き歌」がルーツとされているようです。「土突き」とは、丸太やタンパー、ランマーなどの道具で地固めをすることです。

私たち退職校長会が持続可能な組織であり続けるために、喫緊の課題等に対峙し、目標、活動等を設立当時のものからより現場に寄り添い現在の状況に合わせ見直すとともに、存在意義を問い直し、実践成果等を見える化していくことが大切だと思います。盤石な組織であり続けるためには、各県各支部の会員の皆さんが生き生きと活動する支部活動が基本だと考えています。花笠音頭のかけ声のように自分たちの足下をもう一度盤石にするための「土突き」が必要です。盤石にするためにこれまでも努力してまいりましたが、これももう一度見直し、どこをどのように「土突き」をし、地固めをしていくかを皆さんとともに知恵を出し合いたいと思います。

理事会、総会、話題提供に続き、銘酒を酌み交わしながら語り合い、花笠音頭を拝聴して、引き続き持続可能な東北地区退職校長会協議会であり続けられるよう微力ながら努力してまいりたいと心に誓った次第です。

本大会は、企画、準備、運営とどれをとっても今後の大会への試金石となるもので、各場面が私の心にしっかり刻み込まれました。山形県退職校長会　鈴木会長様をはじめ事務局の皆様、関係の皆様に衷心より御礼申し上げますとともに、各県退職校長会の益々の発展、会員の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、あいさつといたします。

第51回 東北地区退職校長会協議会　山形大会

協議題「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」

今年度の東北地区退職校長会協議会山形大会は、山形市の山形国際ホテルを会場に10月９日（木）・10日（金）に開催された。１日目は理事会、大会を行った。２日目は朝食後解散となった。

理事会

東北地区退職校長会協議会福士寛樹会長から、６月に開催された全連退の理事会・総会の報告（沖縄県の解散、山口県の脱退の状況など）の後、青森県の今年度末退会申し入れに伴う運営等の見直しについて意見を頂戴したい旨のあいさつがあった。

次に議長選出が行われ、議長には慣例に基づき、開催県から山形県退職校長会鈴木弘康会長が選出され、協議に入った。

①　役員人事について

東北地区退職校長会協議会会則第５条により、会長に福士寛樹氏（福島県）、副会長には、伊藤栄二氏（秋田県）、奈良年永氏（青森県）、吉川健次氏（岩手県）、荘司貴喜氏（宮城県）、鈴木弘康氏（山形県）、会長県からは副会長一名を加え、坂爪靖夫氏（福島県）が承認された。

②　青森県の退会に至る状況説明

青森県の奈良年永会長から、会員の減少や予算のひっ迫、さらに役員のなり手不足等により運営が困難となっている状況の説明があり、令和８年３月31日をもって協議会を退会することが承認された。

③　各県からの情報提供

○福島県鈴木博事務局長から、令和８年度以降の東北地区退職校長会協議会の在り方の提案がなされた。

・青森県退職校長会の退会と今後の関係

青森県の退会後の関わり（本協議会との連絡窓口、東北地区情報の継続配付、理事会・大会への自主参加）について検討。

・会則改正の論点と進め方

退会に伴う取扱い方針（青森県の役員割当停止、会長職・大会会場の輪番から除外、本会経費の不徴収）、名称・事務局（第１条）、用語の整理（第２～４条）、申し合わせ事項新設、役員・輪番（第５条、第６条）、全連体との関係の明確化など、本理事会では方向性を了承し、今後会長同士で決定していくことを承認。

・今後の東北地区退職校長会協議会の在り方について

１泊２日の開催の見直し（各県の負担軽減を図る）。

※これらの提案は、今後適宜各県会長との連絡等で決定していくこととした。

○山形県黒木佳昭幹事から持続可能な東北地区退職校長会協議会にするための提案がなされた。

・ミニマム化によるコスト削減…大会の一日開催、内容は理事会・理事研修会・情報交換

・ＤＸの推進…オンライン会議活用、東北地区情報のペーパーレス化

・開催県の固定化…仙台市か盛岡市に固定。その場合当該県の負担増については検討。

※来年度からは一日開催を目指す方向で了承。大会存続等については会長会で整理していくこととした。

○秋田県伊藤栄二会長から次年度（第52回）大会開催及び協議題について提案がなされた。

・次回秋田大会の骨子（案）

期　　日…令和８年10月15日（木）

会　　場…ホテルメトロポリタン秋田

協 議 題…「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」（継続）

参 加 費…各県負担金２万円、東北地区情報負担金４千円、参加費については検討中

話題提供…岩手県、宮城県

講　　話…全連退からの来賓招待は行わず、東北地区会長の報告で代替したい。

※講話については結論を出すことが難しいので、今後詰めていくこととした。

昼食会

各県の活動状況等の報告を聞きながら、昼食・歓談し、情報交換を行った。

大会

大会は、全国連合退職校長会常任理事三上裕三様をはじめ、山形県教育委員会教育次長様、山形県市町村教育委員会会長金沢智也様、山形県連合小学校長会会長樋口潤一様、山形県中学校長会会長細谷直樹様、山形県高等学校長会会長渡邉晃様、山形県特別支援学校長会会長矢野裕之様を来賓に迎えて開催された。

開会行事

東北地区退職校長会協議会福士寛樹会長、開催県鈴木弘康山形県会長のあいさつに続き、来賓の山形県教育委員会須貝英彦様（代読：教育次長様）、山形県市町村教育委員会金沢智也様、山形県高等学校長会渡邉晃様よりご祝辞を頂いた。

講話

全国連合退職校長会常任理事（会計部長）の三上裕三

氏に「全連退は今……」という演題で講話をいただいた。

全連退の設立60周年記念式典・祝賀会が開催されたこと、給特法の改正が国会で可決し、教職調整額が50年ぶりに引き上げられること、ＯＥＣＤの調査によると、教員の労働時間は他国より長く依然として最も多い水準にあり、教員の働き方改革が求められていること、教員の不足、支援教育担当者の不足、教員志望者が減少していることなどを話された。

話題提供と協議

協議題「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」をもとに、秋田県退職校長会　酒井浩氏（自然の中で育つ子ども）と青森退職校長会　野呂良悦氏（青森県における「教育の日」の取り組みについて～「あおもり教育の日」推進大会西北大会を通して～）より実践発表があった。詳細は、各県発表の概要（３～４ページ）を参照願いたい。

理事会報告　閉会行事

山形県退職校長会塩野譲副会長より、理事会で協議された内容（青森県の退会承認と会則改訂の大枠の検討内容、秋田大会の一日開催、継続審議事項など）が報告された。

閉会行事では、福士寛樹協議会会長のあいさつに続き、次年度開催県の秋田県伊藤栄二会長のあいさつがあり、大会を閉じた。

親睦懇親会

各県代表と多くのご来賓の参加のもと、山形県教育委員会須貝英彦教育長様より祝辞をいただき、全連退常任理事三上裕三様の乾杯で親睦懇親会が開かれ、親睦を深めた。青森県は今年度で退会となるが、改めて「東北はひとつ」であることを確認することができた。

各県発表の概要

自然の中で育つ子どもたち
～里山は子育て道場～

秋田県横手市退職校長会
酒井　浩　氏

○はじめに

退職して８年目。現職時代から子どもの自然離れを感じ、休日にボランティアで親子や子どもを対象にした自然観察会を行っていた。そして退職時に他の仕事には一切つかず、自然観察会など自然体験活動に専念しようと考えた。活動日数は打ち合わせや下見を含めて年間１００日は超える。今は大変充実した日々を過ごしている。

○本来子どもは豊かな感性を持っている

子ども時代には三度の食事と同じように、自然の中で遊ぶ経験が必要だ。自然体験は五感を磨き豊かな感性を育む。アメリカの海洋生物学者レイチェル・カーソンは、その著書センス・オブ・ワンダーの中で、「全ての子どもは生まれながらに神秘さや不思議さに目を見張る感性を持っている。大事なことは、私たちがそれを子どもたちと一緒に再発見し、感動を分かち合うことだ。そういう大人が一人でもいればいい」と述べている。

○モンゴル・カンボジアでの活動について

２０１９年にモンゴルで植林と小学校で授業をしてきた。植林では、もたもたしている私のスコップを取り上げて手伝ってくれた。小学校の授業ではテレビもパソコンもない環境の中で、一生懸命学んでいる子どもたちの姿がとても印象に残っている。２０２４年と今年の夏には、カンボジアの小学校で授業と校舎建設のお手伝いをしてきた。昨年は空気砲の、今年は電気回路の実験をした。二度とも子どもからは前向きで純粋な姿が見られた。今年は日本の子どもを連れて行った。横手の高校生も参加した。校舎建設の際には、どういうわけか子どもたちがわーっと集まってくれて、煉瓦運びをしてくれた。

○自然体験活動を通しての子どもの姿の変化について

３年前から子どもの日に自然教室を実施している。キャッチフレーズは「里山へＧＯ！ＧＯ！ＧＯ！」である。参加費は無料で、地域の里山で親子で遊ぶという企画である。青少年育成横手市民会議の協力を得て実施している。参加者は徐々に増えている。体験を通じて思うことは、子どもたちは直接自然と触れ合うことで、絶対忘れることはないドキドキハラハラ体験をしているということだ。はじめは興味の無かった子どもが、一つの体験をきっかけに毎回参加するようになったり、最後は達成感や充実感でいっぱいで私に抱きついてきた子どもがいたり、親子で一緒に活動することで関係が良くなったりなど嬉しいことがたくさんあった。また子どもたちだけで参加する体験もある。そこでは違う年齢の子どもが先輩も後輩もなくて仲良くなった。様々な活動を通して子どもは着実に変わっていくということを実感している。

○８年活動に参加し続けた１人の子どもの成長について

小学校３年生の時から、観察会、講演会、講座ともほとんど参加してきた子どもがいる。現在横手高校１年生である。年下の子にとっては、本当にいいお兄さん、憧れのお兄さんに育っている。小学生が「僕もお兄さんのようになりたい」って言ってくれた。それが嬉しかった。ある参加者が「中学生にもなってなぜこういうものに参加しているの」と聞いたら、「いやあ、僕はもしこの活動に来ていなければ、ただゲームやってる人間になってたと思う」と言った。もしかするとそれよりも面白いもの、価値あるものを彼は見つけたのだと思っている。

○これからの課題について

まず活動の予算を何処から捻出するかということ。また一緒に活動をサポートしてくれる人や、団体の協力が欠かせない。最近ではクマ問題も深刻だ。また子どもたちは毎日色々忙しいので、参加者の確保も課題である。

青森県における「教育の日」の取り組みについて
～第18回「あおもり教育の日」推進大会西北大会を通して～

青森県退職校長会　西北支部
野呂良悦　氏

1　全国連合退職校長会における「教育の日」制定の経緯

○平成８年「教育の日」制定を目指した活動を開始。
○平成９年　全国各都道府県の退職校長会へ意向調査（回答数の約80％の団体が賛意を示す）
○平成10年「教育の日」制定推進委員会を設置し、活動を開始。制定の趣旨「趣意書」を作成。

2　青森県における「教育の日」制定の経緯

○平成13年　青森県退職校長会総会において「教育の日」制定運動推進を決定。「教育の日」制定発起人会（９団体）を結成し制定推進協議会設立の準備開始。
○平成14年「あおもり教育の日」制定推進協議会を設立し次の５点について決議。
①　名称を「あおもり教育の日」とする。
②　民間主導で進める。
③　毎年11月第１土曜日を「教育の日」とする。
④　参加団体負担金を年額５０００円とする。
⑤　活動を推進する機関として「あおもり教育」の推進協議会を設立する。
11月２日「あおもり教育の日」制定大会開催し、「あおもり教育の日」制定宣言文を制定
○「あおもり教育の日」制定後の主な活動
◇「あおもり教育の日」推進協議会を中心に推進計画に基づいて活動（現在　第３次推進計画）
・「あおもり教育の日」推進大会を、毎年県内６支部の持ち回りで開催。
・「いじめ」防止３ない運動の推進。
・広報活動として会報「おあしす」発行（年１回）

3　第18回「あおもり教育の日」推進大会西北大会

＊令和元年以来４年ぶりの開催（コロナ感染防止のため）
○開催日　令和６年11月２日（土）「あおもり教育の日」
○大会スローガン
「大人が変われば子どもが変わる　子どもが輝く　郷土の未来」
○大会主題　「子どもの夢　未来への扉」
○主催　「あおもり教育の日」推進協議会
○主管　「あおもり教育の日」西北大会実行委員会
○主な内容
◇パネルディスカッション
「今届けよう私たちの思い　応援します　君たちの未来」
・地元の小学生（２名）・中学生（３名）・高校生（２名県立高・私立高）が、自分たちの地域や将来の夢などを語り、それに対して大人がどのように応援できるか一緒に考える。
＊来賓として出席して下さった宮下青森県知事が開会行事からパネルディスカッションまで参加して下さり、最後にパネラーと会場の皆さんへ感想を述べられた。
◇講演
・演題　「子どもの夢を育む　新・青森の教育」
・講師　弘前大学教育学部　教職実践専攻
教職大学院教授　三戸　延聖　氏

4　大会を終えて

○小中高生がそれぞれの立場から地域の課題や夢を具体的に述べ、感動し考えさせられた大会であった。
○子供たちの声に耳を傾けることを通して、大人たちがどう変わるべきかを考える有意義な機会となった
○参加者層（保護者や地域住民等）を広げるための工夫が必要である。
○開催のローテーション制（県内６支部持ち回り）を見直し、負担軽減を図る必要がある。

各県の紹介

変革のとき

秋田県退職校長会
会長　伊藤栄二

昨年７月16日、福士寛樹会長からのメールで、「青森県退職校長会の本年度限りでの解散」との突然の報に衝撃を禁じ得ませんでした。その後の青森県の会報では、奈良会長が「誠に辛く、寂しい結末」と述べられていましたが、そのご心境は察するに余りあるものがあります。

このような厳しい状況下、本県退職校長会においても会員数の減少と、それに伴う予算の逼迫は、差し迫った課題となっております。そのため、今年度からホームページの運用による広報活動と、会報等のペーパーレス化への取組を始めたところです。時代は急速に変化しています。私たち退職校長会の持続可能性を強化するためにも、様々な変革にスピード感をもって取り組む必要があると感じております。

さて、現在の教育界の激しい変化の中で、学校では人工知能ＡＩへの適切な対応が求められています。学校現場を離れて久しい私たち退職校長には、新しい技術になかなか追い付いていけないのが現状です。そこで、本県退職校長会では、秋の研修大会において、元秋田県立大学知能メカトロニクス学科教授から、「ＡＩの過去・現在・近未来」と題してご講演をいただきました。ＡＩに関する歴史や現状、そして今後の展望と課題について研修を深めました。

私たちの研修は、退職後の人生においても教育者としての使命感を持ち続け、教育振興への具体的な手がかりを見出すこと、そして、何よりも自分自身の生き甲斐を確かなものとすることにあります。学校を取り巻く最新の環境への理解を深め、未来を展望する知恵と豊かな教養を身に付けておきたいと願っているところです。

解散と退会

青森県退職校長会
会長　奈良年永

既にご案内のように令和８年度で本退職校長会は解散することになっております。誠に辛く、そして寂しい結末ではありますが、各支部会員の総意に基づく決定でありますので、厳粛に受け止め終わりを完（まっと）うしたいものであります。

解散するに至った主たる要因として挙げられるものは、会員数の急激な減少により財政の健全性が損なわれ、収支の均衡がとれなくなったこと。そして、運営に当たる幹事スタッフの慢性的な不足などにより、事業の遂行ができなくなったことなどであります。このようなことから、本年度の総会での解散の決議決定を経て、全国連合退職校長会（全連退）から退会し、同じく東北地区退職校長会協議会からも退会することになります。

思えば、本会は昭和48年に会員数39名で青森市において設立され、翌年全国連合退職校長会に加盟し、会員相互の親睦と福祉の増進並びに教育尊重の実をあげ、県教育の振興に寄与することの指標のもとに歩み続けて今日までの星霜を経ております。その間、昭和57年に上北・東青・中弘南黒・三八支部が結成され、昭和61年には下北支部が結成されて県全体が一丸となった組織として、鋭意活動を進めてきたところです。

ここに改めて草創期の先輩諸氏の志に思いを致し、更にそれに続いた先輩各位の並々ならぬ教育愛の精神によって年々発展の一途を辿ってきたことに心から感謝の誠を申し上げるところであります。

県本部が解散しても、これまでの各支部は、各地区の退職校長会として存続し、研修と親睦を基にして一層充実発展されることを衷心より願うものであります。私自身も東青地区退職校長会の一員として、活動して参る所存であります。

転機の年を迎えて

岩手県公立学校退職校長会
事務局長　舘澤卓宏

今回の「山形大会」は、青森県の東北地区退職校長会協議会退会と言う衝撃的な発表で幕をあけました。また、次年度の「秋田大会」からは１泊２日から１日開催へと大会そのものに変革の見られた大会でもありました。

さて、令和７年度の岩手県公立学校退職校長会は、二大イベントと今後の会の継続発展に係る急務の課題への方向性を模索する年と言えます。

【結成60周年記念大会・第51回県研修親睦会盛岡大会】

60年と言う節目の年を迎え、９月18・19日、つなぎ温泉ホテル紫苑を会場に１日目は、記念式典・感謝状贈呈式、記念講演（第46代南部家当主：南部利文氏）、鎮魂の歌・児童生徒の発表、記念祝賀会を開催し、２日目は、見学研修として盛岡ゆかりの施設５か所を各自見聞し合い有意義な１泊２日となりました。また、結成60周年記念誌も発刊し会員各位並びに関係機関に送呈しました。

【創立20周年記念誌「いわて教育の日」の発刊】

同じく今年度は、「いわて教育の日」に関する条例が制定されたのを受け、啓発普及の支援団体として「いわて教育の日」推進協議会を発足して20年目を迎えました。

ついては、推進協議会の事務局である本会は、この10年間の活動のあゆみをまとめた「設立20周年記念誌」を12月末には発刊し送呈する予定です。

【急務の課題】

本会の最大の課題は、少子化による統廃合で校長の減少と、ご逝去や会費納入免除者の増加に伴う会費納入者の減少により、これまで通りの事業を展開することが困難な状況になってきている現状にあります。

ついては、事業の見直しを図ると共に諸会議の会場変更等、年会費を増額することなく継続発展すべく、急務の課題として対応策を２月の県内16地区の会長が出席する理事会に向けて試行錯誤しているところです。

よりよい在り方を探る

宮城県退職校長会
会長　荘司貴喜

第51回東北地区退職校長会協議会山形大会が、事務局並びに山形県退職校長会の皆様の心温まる運営のお陰で無事に終了できましたこと、心より感謝申し上げます。

今回の協議会では、これからの運営等にかかわって熱い意見交換がなされました。この中で、青森県退職校長会の退会が決定し、残念に思っています。青森県のこれまでのご尽力に感謝し、今後の復帰を願っております。またこれを契機とし、「東北はひとつ」の理念を貫き、これまでの役割を維持発展させることができるようにと、各県が共通の課題意識を再認識できたことは大きな成果です。来年度より本協議会が１日開催となりスリム化を図ること、またペーパーレス化の方向を継続して検討することなど、新しい歩みとなると思います。

本県は14支部から構成されています。所属会員が８００名を超える支部もあれば、40名弱の支部もあり、活動内容も様々な特色をもちながら各会員と共に取り組んでいます。しかし、会員数の減少は、活動費の減少や役員の担い手不足につながり、どの支部も課題となっています。その様な中でも、各支部では、現職校長の退職後の生活に参考になる情報交換会を実施したり、学校の要望に応え、ボランティアを募って活動をしたりと新しい試みも生まれています。今後も、各支部の特色ある活動を支援できるよう、宮城県県退職校長会としても努力していきたいと思います。

今回、山形大会での貴重な話し合いの中で、各県それぞれの運営や取組についての情報交換が行われ、各県の充実した取組が、東北地区協議会の根幹になるのだと再認識できたことは、私にとっては大きな成果です。今後も我が宮城県の会員と共に、新しい退職校長会のより良い在り方を探るため歩みを進めて参ります。

新入会員の現状と勧誘の取組

福島県公立学校退職校長会
副会長　坂爪靖夫

一昨年の第50回東北地区退職校長協議会福島大会では、各県から多数の役員の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。６年に一度の大会ということで、準備や当日の運営において課題もあったかと存じますが、皆様のご協力のおかげをもちまして、無事に終えることができました。心より感謝申し上げます。

さて、近年、福島県においても定年延長の影響や個人の価値観の変化等により、本会への加入率・加入者数が減少傾向にあります。小・中・県立を合わせた近年の加入率および新入会員数は、令和５年度が77・７％（１０１人）、令和６年度が62・７％（69人）、令和７年度が47・６％（60人）となっており、予算にも大きな影響を及ぼしています。運営経費の削減にも限界があるため、今後は会議の回数の見直しや、毎年開催している県大会の在り方についても検討を進めているところです。

そこで本年度、「退職・役職定年者および未加入会員への勧誘活動等調査」を実施しました。県内16支部のうち、令和６年度に取り組んだ内容は、「現職校長および未加入会員への勧誘活動」が７支部、「現職校長への勧誘活動のみ」が９支部でした。入会申込書の送付や電話による勧誘以外の具体的な方法としては、「現職校長との懇親会・交流会」が11支部、「現職校長会開催時の説明会」が３支部、「現職校長との研修会」が２支部、「現職校長会校長校への訪問」が２支部となっております（支部の重複あり）。このように、各支部において積極的な勧誘活動が行われているものの、残念ながら加入者数・加入率は依然として減少傾向にあります。

今後は誠実かつ粘り強い勧誘活動や学校支援を継続するとともに、退職後に現職校長がぜひ加入したいと思える環境づくりが必要であると強く感じております。

会費上げずに質磨く

山形県退職校長会
会長　鈴木弘康

令和７年１月、３つの目標を掲げました。

１　持続可能な組織へ

たとえ30年間据え置かれてきたとしても、会費の値上げは絶対避けたいことです。

会員からいただいた会費に見合うことができているかと問えば、「まだまだ」と思うからです。

私たちは、何か社会的な意味を持ちながら豊かに生きたいと願っています。他者のために生きることが自分の喜びとして還ってくる、まさにウェルビーイングを標榜しているのです。「まだまだ」語り合わねばなりません。

２　新たな教育研修会の策定

「おらほの自慢『山形教育』の原点を探る」を主題に県内一巡した教育研修会、各支部からは趣旨継承の声高く、「未来へつなぐ！おらほの教育文化」を新主題にして、思い切った転換を図っています。

①　各支部の「輪番開催」から「お手上げ制」へ

②　参加者への「旅費補助」から「自費参加」へ

③　市民参加を促し、退校会を社会的存在へ

市民参加で教育研修会の社会化を図ろうとすれば、会員の自費参加は自然の流れでした。心配はあったのですが、来年と再来年の開催に手が挙がっています。

３　東北協議会の主管開催

開催県となった時のため、毎年予算に計上していた積立が難しくなってきました。「１日開催」への方向転換は、本県にとっては死活問題でした。

これまで役員人事と次期開催要項の決議だけだった理事会、すべてに過渡期の今、協議時間が足りていません。逆にその必要性とか意義が明確でない「大会」については整理してみる必要がありそうです。少なくても10年先を見ての提案をさせていただきました。

福島市親水公園の白鳥

編集後記

（福島県公立学校退職校長会 広報部長　二瓶　洋允）

大寒が過ぎ、間もなく春がやって来ます。

第51回東北地区退職校長会協議会「山形大会」が盛況のうちに終わりました。その中での大きな出来事は、青森県退職校長会が本協議会から令和８年３月31日をもって退会となることが承認されたことです。組織として存続していくことの難しさを改めて考えさせられた次第です。

会員の減少や高齢化、新入会員の減少、役員のなり手不足、財政難等の各県共通の課題が浮き彫りになりました。

どのようにして組織の力を高め存続していくか、現状を見つめながら、対応していく状況にあります。

各県とも持続可能な退職校長会の模索が始まっています。

福島市内から吾妻小富士を望む

【各県の窓口（事務局長と連絡先）】

秋田県	（石郷岡仁司）	018-863-6928
青森県	（鳴海　強）	017-739-5013
岩手県	（舘澤　卓宏）	019-646-3612
宮城県	（小野　聡子）	090-7072-8705
福島県	（鈴木　博）	024-591-1733
山形県	（村山　良光）	023-643-7852